

学校概要

創立 141 周年	学校長 市川幸男	副校長 河村淳司	学期 2 学期制	児童・生徒数 221 人
学級数 一般級: 9 個別支援級: 2		主な関係校: 飯島中学校 大正中学校 南戸塚中学校		

学校教育目標

- 分かる喜びやできる楽しさを味わうことを通して、確かな基礎・基本の習得のもと、自ら問いかけ、自ら解決する子どもを育てます。
- 多様な触れ合いの場を通して、お互いの良さを認め、自分を高め、よりよく生きようとする子を育てます。
- 体力づくり・仲間づくりを目指した体験的活動を充実させ、命の尊さを知り、健やかな心と体を育むために努力する子を育てます。
- 体験的触れ合い活動を充実させ、地域に学び、地域を愛する子を育てます。
- 伝える・聞くなどのコミュニケーション力を育て、食・福祉・環境などの今日的課題についての考えを深め、実践する子を育てます。

学校の特徴

- 豊かな自然と古くからの伝統・遺物が残され、「ふるさと観」を強くもてる学校であり、生活科や横浜の時間の材が豊富である。
- 保護者・地域からの期待は大きく、PTA活動や学校ボランティア活動にも積極的に参加するなど協力的である。
- 授業づくりに熱心な職員が多く、学び合う姿勢が生まれている。
- 基本的な生活習慣・社会生活への関心を高め、自立への支援を推進する必要がある。
- 学力状況調査等の結果から、基礎・基本の確かな習得、及び、主体的に問題解決を進めていく学習力の育成に継続して取り組む必要がある。

学校経営中期取組目標

- 学校教育目標を実現するために、全ての児童が豊かに自己実現できる学校づくりを目指します。
- ・確かな修得と深い学びの具現を目指した授業づくりから、本校に学ぶ全ての子が、自信をもち主体的に問題解決する姿が育成されている。
- ・多様な触れ合いの中、心と心を通い合わせ、個性あふれる人間性と豊かな社会性をもった姿が具現化されています。
- ・体力づくり・仲間づくりを目指した多様な運動機会を充実させ、全ての子が、命の尊さを知り、健やかな心と体を育むために努力しています。
- ・本校に学ぶ全ての子の幸せのために小中一貫教育推進ブロックや家庭・地域と連携し、信頼に応えられる学校づくりを進めています。
- ・本校教職員が相互に啓発・連携し、熱気と活気にあふれた学校運営組織が確立されています。

小中一貫教育の取組

飯島中学	ブロック	飯島中学 千秀小学校 飯島小学校
9年間で育てる子ども像	・体験的な学習や課題解決的な学習を基盤とし、一人ひとりが認め合い共に学び合う子どもたちを育てています。	
自校の具体的取組	・生きて働く学力の育成・豊かな心の育成、たくましい体づくりを重要課題と位置づけ、各教科・領域において課題解決を目指した授業交流を進める。また、児童生徒の交流日に、積極的に参加し、中学校との交流と不安の解消を図る。 ・教務主任会や専任会などで得た情報を基に、自校の「各種スタンダード」の改善・共通化を進める。 ・中学校ブロック協働の「あいさつ運動」を通して、自己有用感や自尊感情を高める「自分づくり教育」の推進を図る。	

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	主体的・対話的な学びを保障する学習過程の工夫を図り、確かな基礎・基本の修得のもと、深い思考力・的確な判断力・豊かな表現力の育成を目指します。	①スモールステップでの習得状況の形成的評価と対応した指導、及び、家庭学習と連携したドリルタイムの推進を通して基礎・基本の確かな習得が保障されている。 ②課題把握・自力解決・集団での思考の磨き合い・課題解決という学習スタイルの深化を進め、思考力・判断力・表現力を十分発揮できる姿の育成が図られている。
豊かな心	よりよい人間関係を築いていこうとする姿を価値付けするとともに、子どもの自尊感情を育て、自分を大切にすることを育てます。	①スマイル活動、あいさつ運動、地域との交わり等、多くの人との交流の機会を大切に、心の満足感のもと、自分の居場所づくり、人への思いやりの心を高められている。 ②道徳教育の充実、体験的活動の充実を進め、全人的な情意の育成を図られ、社会の中の一員として、豊かな生活を進めていく道徳的実践力・判断力の育成が図られている。
健やかな体	各種運動機会を大切に体力の向上を目指すとともに、基本的な健康生活に関する意識付けを図り、安全への対応力の育成に全校で取り組む。	①日常の運動状況の把握や体力テスト等の結果から、できた喜びをともに味わう授業改善を図り、進んで運動に取り組む、運動の良さを体験していく児童の育成が図られている。 ②多様な運動機会を提供し、運動生活の日常化を図り、逞しい心身の育成につなげる。 ③防災・安全に関わる教育を進め、危機意識の高揚や健康生活の良さが体感されている。
教育課程学習指導	児童の学習意欲を高め、学ぶことの楽しさを体感できる授業の改善が常に進められている。また、教科領域の枠を柔軟に捉えた取り扱いも進めます。	①評価と指導の一体化・少人数指導・習熟度別指導の積極的導入を進め、すべての児童に「分かる」「できる」を実感させ、学習成就感を高める学習指導が実践されている。 ②教科・領域の枠にとらわれず、関連する事項を結びつけた横断的な取り扱いを進められている。合わせてアクティブラーニング導入を図り、能動的学習力育成が進められている。
児童生徒指導	全職員が児童とのコミュニケーションを大切に、その理解に努めるとともに「学校スタンダード」を共有し、いじめのない安心感ある学校を目指します。	①児童理解を第一と捉え、各種検査の定期的・継続的な実施はもちろんのこと学校生活のあらゆる場面で児童に寄り添い、児童の多様な理解が進められている。 ②課題の把握、課題を抱える子への、全校サポート体制が整備され、即応されている。 ③家庭、児童育成に関係する機関との連携を密にし、組織的な指導がなされている。
地域連携	学校運営協議会・チーム千秀を中心とした保護者・地域のサポート関係を強化し、開かれた学校づくりとともに、地域と協働した教育を進めます。	①学校運営協議会を中心に、学校理解を深めるとともに、地域とのコラボレーションを今まで以上に図り、地域と協働した教育が進められている。 ②チーム千秀・PTAを中心として、地域・家庭の教育力の学校教育への積極的な導入を図る。
特別支援教育	一般級と個別支援学級の連携を密にします。さらに困り感をもった子どもへの、共感的支援を進めます。また合理的配慮に対する職員の理解も進めます。	①インクルーシブ教育推進を図り、個々の子どもに合った多様な学習が提供されている。 ②個別支援教育の推進においては保護者との対話に努め、保護者との理解と受容にのめと、共同歩調を重視した経営が実践されている。 ③困り感をもった児童への対応については組織的な共感的支援が図られている。
人材育成・組織運営	指導改善を推進する研修や職員間の情報交換の活性化から常に自らの専門性を向上させる教職員の育成が図られています。	①メンターの研修、中堅教師の研修等、キャリアに応じた教師力の育成が図られている。 ②職員全体が学校教育目標の具現をめざす目的集団となることを目指し、自由で関連な情報交換やコミュニケーションがとれる職場づくりを勤めている。 ③ICTの活用、事務の見直し等を進め、仕事の効率化が図られている。
いじめへの対応	児童一人ひとりの心理や特性を見出す児童理解に努める。また、道徳教育・人権教育の充実を図る	①児童の心の動きをとらえるため、カウンセリングスキルに関する研修を行う ②「特別な教科道徳」において、児童に自己を見つめ、より多角的・多面的にとらえ、自分の考えを深める力を育む学習が実践されている。